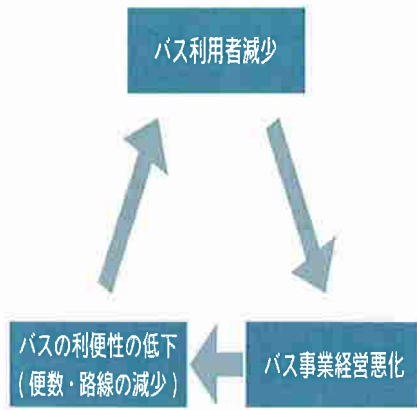


バスの利便性の低下、これが、私たちが自家用車にたよってバスを利用しなくなり、バス事業者の経営は悪化し、便数や路線は縮小され、さらに利用しなくなり・・・その循環が一つの原因となっているという事も考えられます。

バス利便性低下の悪循環



課題

「便利で無駄のない交通手段の確保」

バス停が遠くてバスが利用できない方や必要な時間にはバスが通っていないと言いう方もあるのではないのでしょうか？ また、核家族化や高齢化が進む中、運転をリタイアされる方も増えていき、交通手段を確保する必要性はますます高まっていくものと思われます。今現在、交通手段を持っていない人だけのためではなく、自分のため、地域のため、町民みんなのために、どうすれば利便性が高く効率のよい交通手段を確保できるのかを考えていかなければなりません。

3月上旬、路線バスに乗車して、利用者の方にインタビューをさせていただきました。こころよく答えてくださったみなさん、ありがとうございました。

「空席が目立つ大きなバスを走らせてもらって、気の毒に思うこともありますけれど、バスがあつてとても助かっています。」(高齢者)

利用者の約40%が高齢者で、ほとんどの方が通院のために乗車しておられました。

「米子まで通勤に使っているけれど、もしバスがなかったら仕事を変えなければいけなくなります。」(会社員)

約25%の方は通勤のための乗車でした。通勤を含め、約40%の方が町外への外出に利用しておられました。

学生の利用は約25%。同じ意見が多く聞かれました。

「列車で駅まで帰ってきて、駅から家の方へ行くバスと時間が合わないことがあって不便です。」(高校生)



廃食用油で走り始めました

最近、巡回バスが通った後、「・・・なぜか天ぷらのような臭いが・・・？」と思われた方はありませんか？

巡回バスは、2月21日から、環境に優しい、バイオディーゼル燃料を使って運行しています。バイオディーゼル燃料は、植物性の油を原料にした、軽油の代替燃料のことで、現在、柿木村共同作業所(高田)が給食センターや町内外の色々な施設の使用済み食用油を回収し、精製しておられるものを町が購入して、利用しています。



この様な特長があります

- 車両を改造することなく、使用できます。
- 軽油に比べ、排ガス中の黒煙が非常に少なく、大気中への二酸化炭素の排出量も少なくなります。
- 100%使用であれば、軽油引取税は課税対象外となり、経済的です。
- 軽油とほぼ同等の燃費と走行性があります。

この環境にも財政にも優しい、バイオディーゼル燃料を、今後は公用車にも使用していきたいと考えています。